



## とうきょう すくわくプログラム

### 2024年度活動報告書

文京白山雲母保育園



#### テーマ【 キノコ 】

##### 設定した理由・背景

子どもたちの中で、1人とてもキノコが好きで興味を持っている子がいた。その子がキノコの話をする度周りの子もキノコに興味を示していたのでテーマをキノコにした。

##### 用意した環境設定

- ・室内にキノコの写真を貼り、キノコに興味を持ってもらえるような環境にしたり、植物園へキノコ探しに出かけたりした
- ・購入物品はキノコ図鑑とキノコ栽培キット

#### 活動のあゆみ

- 1 1月20日10時の活動時間中にキノコの制作を行なった。
- 1 1月27日～毎週水曜日は植物園へ行きキノコ探しを行なった。
- 3月4日～キノコ栽培キットでキノコを育て始めた。毎日霧吹きで水を子どもたちにかけてもらう。
- 3月12日1回目のキノコ収穫を行なった。
- 3月14日2回目のキノコ収穫
- 3月18日3回目のキノコ収穫

#### ＊探究活動の実績＊

##### ①活動のはじまり

キノコ好きな子がクラスに1人いて、どんなキノコが好きなのか話や特徴を聞いていると周りの子どもたちもキノコに興味が出てきている様子がありました。

そんな中で、キノコを探して見てみようという一言からきのこについての探究活動が始まりました。

##### ②子どもたちの様子や活動

植物園でキノコを見つけると、「きのこあったよ!」ととても目をキラキラさせながら喜ぶ姿がありました。

触ってもいいキノコかを後日調べて、またその場所へ行き、今度は触れながら観察をしました。

子どもたち同士で「あっちにはキノコあるかな」、「何キノコが好き?」と話している姿が見られました。

##### ③おわりの時期

最後には実際に育てて食べてみるという活動を行い、実際に自分達でやってみるという経験は子どもたちの理解や興味にとってもいい刺激になったのではないかなと思います。



植物園でサルノコシカケを見つけた



キノコ栽培キットで収穫体験



収穫したキノコを食べてみた

#### まとめ

キノコをメインに活動をしてきました。最初はクラスの子1人の興味から始まり、最終的には皆がキノコに興味関心があり、栽培し、それを食べる事まで出来た事はとても深い学びと経験になったと思っています。来年度も子どもたちの興味があるものに視点を置いて、その部分を広げられるような活動を考えていきたいなと思います。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2024年度活動報告書

文京白山雲母保育園



#### テーマ【 音 】

##### 設定した理由・背景

子どもたちがよく様々な変化に気付くことができるので、身近な音であれば幅広く興味を持って探究できると考えた。

##### 用意した環境設定

- ・日々の生活の中で、身近な音に興味を持てるように常日頃からどんな音がするのかを聞くようにした。
- ・購入物品→楽器

#### 活動のあゆみ

- ・12月5日 10:00～2歳児クラスと合同で楽器に触れる。12月17日まで週2回楽器演奏を行う。
- ・12月5日～戸外へ散歩に行く際に、どんな音がするのかを聞きながら戸外へ散歩に行く。
- ・2月7日 糸電話作りを行う。完成後から自由に遊べるように室内に置く。

#### ※探究活動の実績※

##### ①活動のはじまり

外に出た時に散歩で「どんな音が聞こえる？」と日々問いかけを行いました。  
また楽器を使って楽器によってどんな音が出るのか、色々な楽器に触れてみました。  
そこから子どもたちの方から「風の音がするよ」「違う音がするよ」という声が聞こえてきました。

##### ②子どもたちの様子

外に出ると風の音や鳥の声など自然の音が聞こえてきて、「あ！音が聞こえた」「これはなんだろうね」と話す様子が見られました。公園では自分達で音を出してみようと促し、葉っぱを踏んだ時の音や水を触った時の音などいろいろな音を探してみました。初めての楽器に戸惑う様子もありましたが、叩く・振るという動きの違いと楽器によって音が違うことを見つけ、「音大きいね」「これはきれいな音だね」と子ども同士でどんな音が伝え合う姿がありました。↓

##### ③終わりの時期の姿

廃材を使って自分達で音を探してみる活動をしました。いろいろな音を探し聞いてきた活動を活かし、生活発表会で音を発表し保護者に伝える活動を行いました。活動の中で子どもたちの音に関する興味もどんどん大きくなり、保育者や友達同士で伝え合う様子がありました。



初めての楽器に触れる様子



葉っぱの音を楽しむ様子



糸電話を作り、楽しむ様子

#### まとめ

子どもたちが自然と身近な音に興味を持つことができるようになり、言葉でも表現をすることが上手になったと思います。異なる素材を使っての音の違いも、伝えようとしていたり自分で音を出してみようとするようになりました。次の活動では、廃材を使って自分で楽器を作って音を出したり普段経験ができないような演奏会などの鑑賞してみる体験をしたりしたいと思います。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2024年度活動報告書

文京白山雲母保育園



#### テーマ【街探検・街づくり】

##### 設定した理由・背景

ポケふたマンホールの塗り絵を行ったことから、園周辺のマンホール・建物に興味をもつようになりました。さらに、毎日の戸外活動で探索をしていくうちに、自分の街にはどんな場所があるのか、どんな人が住んでいるのか興味を持つようになりました。そのため、その建物はどんな役割をしているのか、みんなの生活にどう関わっているのかを探索の目的として、今回のテーマを設定しました。

##### 用意した環境設定

- ・戸外の時間を十分に取り、子どもが興味を持った方面に探索に行ける時間を確保した。
- ・様々な素材を準備して自由に地図作りができるようにした。

#### 活動のあゆみ

- ・1月20日から2月14日まで週2回主活動の時間に街探検にでかける。
- ・2月17日から3月7日まで週2回の主活動の時間と週3回午後の1時間を使い、地図作りを行う。
- ・3月8日の卒園式で完成した地図を披露する。
- ・3月10日から地図を玄関掲示する。

#### ＊探究活動の実績＊

##### ①活動の始まり

・子どもたちは、ポケモンのデザインが描かれたマンホールの塗り絵に夢中になっていました。「近くにポケモンのマンホールがあったらいいのにな」という子どもの声から、「近くにはどんなマンホールがあるのか観察に行こう」と保育者が声を掛け、街に探索に出かけることにしました。

##### ②子どもたちの反応と保育者の関わり

・探検をしていく中で「色々なマンホールがあるね」「色々な場所にあるね」「文京区には何個あるんだろう」「文京区ってどのくらい広いんだろう」と次々に疑問を持ち始めました。そこで保育者が街には地図があることを伝え、次は地図に興味を持つようになり、街にある地図をよく観察するようになりました。子どもたちは、地図の省略化された書き方が面白いようで、「こんなに広い道なのに小さく描かれてる」「この道は地図に載ってないよ」と気づきを友達や保育者に共有していました。

##### ③活動中の子どもたちの様子

地図に興味を持ったことから卒園制作でお散歩マップを作ることにしました。地図を作るためにチェキカメラを用意し、以前の探索で気になったマンホールや建物の写真を撮りに出かけました。地図を作っていくうちに、自分たちの街の象徴は植物園であること、特徴は坂がたくさんあること等たくさんの気づきを得ることができました。集めた写真や今までの気づきをもとに、地図作りを行うと「この道は狭いから書かないで大丈夫かな」「植物園はもっと大きく書いた方がいいよ」「お花が咲いていたところにはお花を描こうよ」等、子供同士で意見を出し合い作業を進める姿が見られました。保育者が用意した様々な素材（フェルト、毛糸、布、画用紙、折り紙、廃材）から必要な材料を選び、作業を進めること3週間ほどで地図が完成しました。

##### ④終わりの時期の姿・まとめ

街探検・街づくりを通して、自分の住んでいる地域に興味を持つようになりました。建設中の工事現場を見て「何ができるんだろうね」と子どもたちで話し合う姿や「写真を撮らせてくれたお弁当屋のおばあちゃん元気かな」と気にかけている姿から、自分が地域や社会の一員としての意識が芽生えていることがわかります。完成した地図を職員や全園児、保護者の方に見てもらい感想をもらったことで、今までの活動にやりがいや達成感を感じていました。



建物の写真を撮っている様子



地図を見て気付いたことを話す姿



完成したお散歩マップを年下児に説明している様子

#### まとめ

子ども達は、地図作りを通して自分の住んでいる街に興味を持つようになりました。毎日通っていたあの道には、素敵なお花が咲いている事、綺麗に清掃してくれている人がいる事、自分たちの登園をいつも優しく見守ってくれてる近所の方がいる事など、たくさんの気づきを得ることが出来ました。そして自分もこの地域の一人だという自覚を持ち始め、通っている図書館の方にきちんと挨拶をしたり公園を綺麗に使うよう意識したりする姿が見られています。さらに探索を深めるために、自分の住んでいる街から飛び出して色々な街の特徴を学んでいくことで、自分の住んでいる地域だけではなく、東京、日本、世界と興味の幅がどんどん広がっていくのではないかと思います。今後子どもたちが街や地図に興味を持ってくれた時には、今回の活動を思い出し探索する楽しさを感じながら学びに繋がれたらいいなと思います。